



富山県

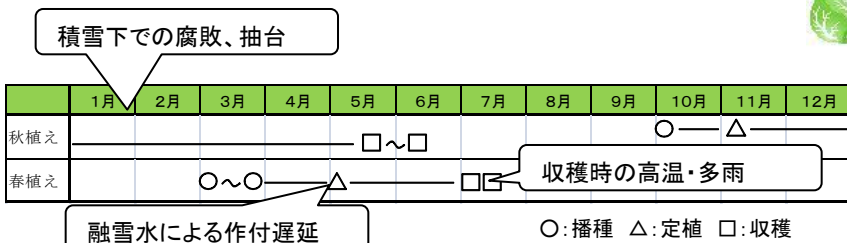
前年秋季畝仮造成による 初夏どりキャベツの安定生産栽培法

富山県農林水産総合技術センター 園芸研究所

1. 背景とねらい

従来の初夏どりキャベツ栽培の問題点

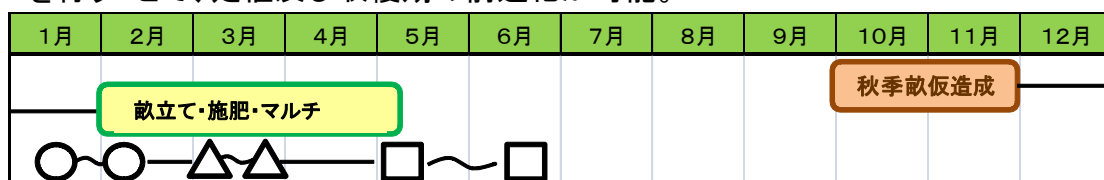
越冬率の低下や排水不良により作柄が不安定



2. 成果の内容

新造型 前年秋季畝仮造成春植栽培

前年の秋季に畝を仮造成し、翌年の融雪直後に畝を再造成及び施肥・マルチ被覆を行うことで、定植及び収穫期の前進化が可能。



1. 作付品種 : 中早生(中早生2号)を用いると、5月下旬~6月上旬に収穫、中生品種(SE)を用いると、6月中旬~下旬に収穫。

2. 栽培・管理:



仮畝造成

耕うん同時畝立て(逆転ロータリ)
畝幅: 160cm、畝高: 25cm
石灰: 100kg/10a散布



畝再造成・局所施肥・畝上面マルチ被覆

施肥量: 窒素20~23kg/10a(速効性肥料10~20%、被覆尿素20日タイプ80~90%)、リン酸・カリ20kg/10a
マルチ被覆: 黒マルチ、でんぷん製生分解性フィルム、幅95cm、厚さ0.02mm

全層施肥: リン酸・カリ資材

局所施肥: 窒素肥料

局所施肥位置

幅50cm

深さ7~10cm

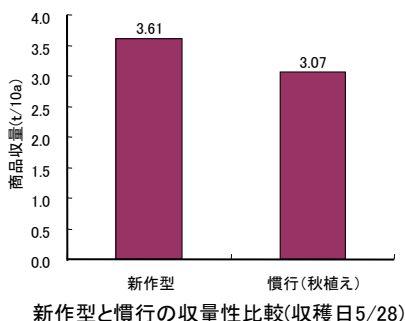
3. 成果の活用

◆初夏どりキャベツの新造型を開発

- ・前年秋季に畝仮造成
- ・翌年春に畝立て後(同時作業実施)、定植

初夏どりの生産安定・作期拡大

- ・5月下旬~6月下旬の安定出荷
- ・40ha規模の集落営農組織での導入を想定した場合、60a規模までこの作型導入が可能



無被覆



畝上面被覆